

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 4 月 30 日現在

機関番号：22604  
 研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2010～2012  
 課題番号：22320001  
 研究課題名（和文）：啓蒙期以後のドイツ・フランスから現代アメリカに至る、哲学・教育・大学の総合的研究  
 研究課題名（英文）：A Synthetic Study of Philosophy, University and Education from the German and French Enlightenment to the Contemporary U.S.  
 研究代表者 西山 雄二 (Nishiyama Yuji)  
 首都大学東京・人文科学研究科・准教授  
 研究者番号：30466817

### 研究成果の概要（和文）：

本研究では、ドイツ、フランス、アメリカの三地域において、哲学者や思想家の大学論や教育論、学問論を検討し、哲学、大学、教育をめぐる原理的な問いを多角的に考察し、次のような研究活動を展開した。1) フランス、ドイツ、イギリス、イスラエルなどで国際会議に参加し、各国の研究者と哲学、教育、大学に関する今日の問題を議論した。2) デリダが創設した国際哲学コレージュに関するドキュメンタリー映画「哲学への権利——国際哲学コレージュの軌跡」の上映と討論会を、日本・韓国・ドイツ・イギリス各地でのべ30回以上開催し、脱構築と教育の関係をめぐって議論を深めた。

### 研究成果の概要（英文）：

This research aimed at elucidating the conception of the university, education and science elaborated by philosophers in Germany, France and the U.S. This approach allowed us to consider from various perspectives the questions of philosophy, university and education through the following research activities. 1) We made presentations at a number of international conferences (in France, Germany, the U.K., Israel, etc.) and discussed actual present-day problems of philosophy, education and university with researchers from various countries. 2) We had more than 30 screenings of a documentary film, “The Right to Philosophy,” at numerous locations including Japan, South Korea, Germany, the U.K. Round table discussions following each viewing served to deepen the debate on the relationship between deconstruction and education.

### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
22年度	1,700,000	510,000	2,210,000
23年度	1,500,000	450,000	1,950,000
24年度	2,200,000	660,000	2,860,000
年度			
年度			
総計	5,400,000	1,620,000	7,020,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 / 哲学・倫理学

キーワード：哲学 / 教育 / 大学 / 哲学教育 / 啓蒙

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) これまでの研究成果

本科研費のプロジェクトは、東京大学グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター (UTCP)」での公開共同研究「哲学と大学」に端を発するものである。2007年11月に西山雄二・宮崎裕助の主宰で若手研究者を中心として発足したこの研究会は、東京大学駒場キャンパスで計6回の定期的なセミナーと2回のシンポジウムを開催した。この共同研究の目的は、18世紀以来の各哲学者の大学論を批判的に考察し、哲学の営みと大学の制度や理念との関係を問い直すことである。その成果として2009年3月に出版された論集『哲学と大学』（西山雄二編、未来社）では、カント、フンボルト、ヘーゲル、ニーチェ、ウェーバー、ハイデガー、デリダの大学論や学問論から今日的意義が引き出され、また、人文科学の立場から大学制度（ヨーロッパの高等教育再編や高学歴ワーキングプアの問題など）の現状が読み解かれた。哲学と大学を正面から扱った著作は類例がなく、論集は少なからぬ反響を呼んだ（「人文学に関わるすべての者にとっての必読の書」、澤田直評、『図書新聞』2009年7月25日付）。

### (2) 本研究に関連する国内の動向

昨今、日本でも人文社会科学系の研究者が大学論・学問論を続々と公開し、大学のあり方を根本的に問う必要性を訴えている。猪木武徳『大学の反省』、上垣豊編『市場化する大学と教養教育の危機』、全国大学高専教職員組合『大学破壊』、苅部直『移りゆく「教養」』、潮木守一『フンボルト理念の終焉？』『職業としての大学教授』、東洋大学哲学科編『哲学の現場、そして教育』などである。また、研究代表者・西山が企画段階から参加した『現代思想』誌2008年9月号「特集＝大学の困難」は思想誌による大学問題の特集号として大きな反響を呼び、その続編として2009年11月号で「特集＝大学の未来」が組まれた。

### (3) 本研究に関連する国外の動向

国外の哲学的な大学論としては、1996年のBill Readings, *The University in Ruins* が昨今の分水嶺をなしており、本研究はReadingsの大学論の批判的展開作業でもある。アメリカでは学際化した人文学の理念の問い直しが進んで、M.Nussbaum, *Cultivating Humanities*; G.C. Spivak,

*Death of a discipline*; E.W. Said, *Humanism and Democratic Criticism*; Ch. Fynsk, *The Claim of Language*などが刊行された。高等教育の制度改編ボローニャ・プロセスが進展する西欧では高等教育の問題と展望に関して、フランスでは、Ch. Charle (éd), *Les ravages de la « mondialisation » universitaire en Europe*; F. Schulteis, *Le cauchemar de Humboldt*などが刊行され、*Esprit* (2007.12), *Mouvements* (2008. 9-12), *Cités* (no 37, 2009)などの思想系の雑誌で特集が組まれた。ドイツでは、D. Kimmich, A. Thumfart, *Universität ohne Zukunft?*; Th. Walter, *Der Bologna-Prozess: Ein Wendepunkt europäischer Hochschulpolitik?*; U. Haß, N. Müller-Schöll, *Was ist eine Universität?*が刊行された。これら西欧の数々の高等教育論に対して、本研究は哲学的視座から一石を投じる。

## 2. 研究の目的

これまでの共同研究「哲学と大学」では、18世紀以来の各哲学者の大学論が批判的に考察され、哲学の営みと大学の制度や理念との関係が問い直された。その発展的継承である本研究の目的は、ドイツ、フランス、アメリカの三地域において、哲学者や思想家の大学論や教育論、学問論を検討し、哲学、大学、教育をめぐる原理的な問い（啓蒙、有用、学際性など）を多角的に考察することである。本研究は、一方で、近代的な大学の黎明期と言える18世紀末から19世紀のドイツとフランスに焦点を絞り、啓蒙思想の源流から教育思想や大学の制度論が浮かび上がって来る歴史的・哲学的な文脈を明らかにする。また他方で、20世紀後半にアメリカで進展した学際性の理念を、デリダの脱構築思想の影響を踏まえつつ、人文学の可能性という視点から反省的に考察する。近代の端緒とポスト・モダンという相反するように見える二つの時代において、哲学、教育、大学をめぐる問いを総合的に考察することが本研究の最終的な目的である。

## 3. 研究の方法

研究代表者・分担者は各人の専門領域にもとづいて、三つの小班で連携して研究を進める。①ドイツ班「18・19世紀ドイツ教育思想における啓蒙主義の問題」（大河内、齋藤、宮崎）、②フランス班「18・19世紀フ

ランス教育思想における有用性の問題」(藤田、西山)、③アメリカ班「20世紀後半における人文学と学際性の問い」(宮崎、西山)。また、国際連携の活動として、西山は映画監督作品『哲学への権利』の上映と討論会をアメリカや韓国で実施し、国際哲学コレージュ(パリ)でのセミナー「哲学と教育」を開催する。そして、全員参加の総括的な研究活動として、年に一度各班のワークショップを開催し、最終年度には総括シンポジウムを実施する。異なる専門分野の国内外の研究協力者と多数連携し、批判的な対話を交わすことで本研究の学際性と国際性が高い水準を維持できるように配慮する。

#### 4. 研究成果

##### 平成 22 年度

1) ドイツ、フランス、アメリカ各班に分かれて研究活動を展開し、過去の哲学者たちが大学の全体像や教育の理念、学問の可能性をいかに構想したのかについて考察を深めた。アメリカ班によって、12月26日に公開ワークショップ「哲学と大学」が一橋大学で開催され、藤本夕衣(京都大学)氏を交えて、アメリカの大学における教養教育論争について討議した。ポスト・モダン時代の大学論の糸口をつかむために、リチャード・ローティとアラン・ブルームの古典論から教養教育の意義が再検討されたことは貴重な成果となった。また、2) 映画『哲学への権利』の上映と討論会が、香港中文大学やカルチュラル・スタディーズ学会世界大会(香港)、韓国の延世大学や研究空間スユノモなどを含めて国内外でのべ16回開催された。香港と韓国、日本国内の各大学において、人文学の異なる現状と問題点が浮き彫りになり、今後の研究連携に向けた交流が深まった。その記録と成果は、研究代表者・西山雄二のDVD付き単著『哲学への権利』(勁草書房)として公刊された。そして、西山がプログラム・ディレクターに選出され、3) フランス・国際哲学コレージュとの国際的な連携活動が開始された。研究分担者・藤田尚志とともにセミナー「哲学の(非)理性的建築物としての大学」がパリで開催され、日本の大学の現状分析と哲学者の大学論の再検討がおこなわれた。今後の任期6年間の国際的な研究活動に向けて確かな第一歩となった。

##### 平成 23 年度

1) 12月3日に公開ワークショップ「哲学と大学II」が一橋大学で開催され(共催:一橋大学国内交流セミナー補助事業)、阿部ふく子(東北大学)氏に発表「〈自ら考えること〉と〈教養形成〉をつなぐ哲学教育—ドイツ

における哲学教授法(Philosophiedidaktik)の展開から」をお願いした。阿部氏は1999年に設立された「哲学。倫理学教授法フォーラム」の取り組みを具体的に紹介しつつ、哲学教育をめぐる論点を具体的に浮き彫りにした。また、2) 映画『哲学への権利』の上映と討論会が、ドイツのフンボルト大学やライプツィヒ大学、イギリスのロンドン大学バーベック校やゴールドスミス校、上智大学、九州産業大学、神田外国語大学など、国内外でのべ13回開催された。ドイツとイギリス、日本国内の各大学において、人文学の異なる現状と問題点が浮き彫りになり、今後の研究連携に向けた交流が深まった。そして、3) 今年度も哲学・教育・大学に関する国際会議への参加がきわめて活発だった。ドイツ・ポツダム大学およびヴッパータール大学での「哲学の制度」、九州産業大学での「制度と運動」、イギリスでの「フクシマ以後の人文学」、ユネスコの国際会議「学校における機会の平等 いかなる平等?」、フランス・国際哲学コレージュでのセミナー「哲学の(非)理性的建築物としての大学」である。国際会議の参加を通じて深められた研究交流は、最終年度の成果公表のための大きな礎となった。以上、本年度は本事業にとって大きく飛躍した年となった。

##### 平成 24 年度

1) 12月3日に公開ワークショップ「哲学と大学 III」が一橋大学で開催され(共催:一橋大学国内交流セミナー補助事業)、福山圭介(一橋大学)氏に発表「構造主義の時代のフランスの大学」をお願いした。ゾラン・ディミッチュ(セルビア・ニシュ大学)氏に講演「The Hearing of University」をしていただき、大学の近代的理念の危機からの脱出法を古代ギリシアにおける聴取を重視する教育法に見出すという議論を展開していただいた。2) 海外での活動に関しては、イスラエルでの国際会議「人文学の未来」、台湾哲学会年次大会での映画「哲学への権利」上映・討論会、フランス・国際哲学コレージュでのセミナー「哲学の(非)理性的建築物としての大学」といった活動を実施した。3) 本研究の最終成果として、論集『人文学と制度』を刊行し、東京大学にて公開ワークショップを実施した。この論集では世界各地の研究者に寄稿を依頼し、人文学の教育研究の危機的現状や課題、今日的な有意義性や公共的価値について考察していただいたことで、充実した論集に仕上げることができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 26 件)

西山雄二、ティリッヒの学問体系論について、『研究プロジェクト「キリスト教大学の学問体系論」研究報告論集』、第 3 号、有、2013 年、53-58 頁。

Hisashi Fujita, L'immémorial. Bergson avec Lévinas, Frédéric Worms (éd.), *Annales bergsoniennes*, 有, t. VI, 2013, 347-372.

Hisashi Fujita, Bergson ou Deleuze. A quoi reconnaît-on le vitalisme ?, Frédéric Worms (éd.), *Annales bergsoniennes*, 有, t. VI, 2013, 413-427.

Yuji Nishiyama, "La gratuité de la philosophie, l'égalité des intelligences", *Diotime*, 53, 有, 2012. (<http://www.educ-revues.fr/Diotime/>)

西山雄二、再び『大学の孤独と自由』の方へ—潮木守一『フンボルト理念の終焉?』に寄せて、『研究プロジェクト「キリスト教大学の学問体系論」研究報告論集』、有、2、2012、25-32 頁。

Hisashi Fujita, "University with Conditions. Reading Derrida's University without Condition", *The Southern Journal of Philosophy* (University of Memphis), 有, Vol. 50, no. 2, 2012, 250-272.

藤田尚志、大学のために—ある読書会の記録、九州産業大学国際文化学部紀要、無、52 号、2012、125-152 頁。

宮崎裕助、法のテキスト／テキストの法 ポール・ド・マンにおけるルソー『社会契約論』のキアスム読解、『現代思想』、無、2012 年 10 月号、190-206 頁。

宮崎裕助、自己免疫的民主主義とはなにか—ジャック・デリダにおける「来たるべきデモクラシー」論の帰趨、『思想』、無、2012 年第 8 号 No.1060、45-68 頁。

Yuji Nishiyama, L'ennemi absolu de la littérature: Blanchot contre de Gaulle, *Cahiers Maurice Blanchot*, 有, 1, 2011, 103-115.

西山雄二、カタストロフィの哲学—レヴィナス『実存から実存者へ』、『現代思想』2011

年 7 月臨時増刊号、無、39-9、2011、78-81 頁。

西山雄二、フランス近代植民地主義におけるアルジェリアの記憶、『不可視の隣人たち』、無、1 号、2011 年、7-24 頁。

大河内泰樹、合理性の階梯—R・ブランダムにおけるヘーゲル主義への一視角、『一橋社会科学』、無、4、2012、2-12 頁。

大河内泰樹、近代社会の病理とコミュニケーション的自由—A・ホネットのヘーゲル『法哲学』解釈、『ヘーゲル哲学研究』、無、17、2011、106-114 頁。

Taiju Okochi, Krieg und internationale Anerkennung. Hegel und Rawls zum Völkerrecht, *Hegel-Jahrbuch*, 無, 2011-2, 2011, 421-426.

Sho Saito, Zu den Quellen der phonetischen Umschrift in Abel-Rémusat's *Éléments de la grammaire chinoise* (1822), *ドイツ啓蒙主義研究*, 無, 11, 2011, 39-63.

Hisashi Fujita, "Politiques de l'émotion. Une lecture des Deux Sources de la morale et de la religion (1932) I. La portée de la voix : l'appel et la personnalité", *Croisements* (Revue francophone de sciences humaines d'Asie de l'Est, sous l'égide des sociétés savantes francophones chinoise, coréenne, japonaise et taïwanaise), 有, 1, 2011, 1-21.

Hisashi Fujita, "University with Conditions. Reading Derrida's University without Condition", *The Southern Journal of Philosophy* (University of Memphis), 有, Vol.50, no.2, 2012, 250-272.

宮崎裕助 (共著)、海賊たちの永遠戦争—ダニエル・ヘラー=ローゼン『万人の敵』に寄せて、『現代思想』、無、39-10、2011、128-136 頁。

西山雄二、脱構築と民主主義—ジャック・デリダの「来たるべき民主主義」をめぐって、『パレーシア』、無、3 号、2010 年、2-19 頁。

大河内泰樹、コミュニケーション・承認・労働—A・ホネットにおける批判的社会理論の准拠点、『唯物論と現代』、無、第 45 号、2010 年、58-71 頁。

大河内泰樹、アクセル・ホネット—承認・

物象化・労働、『POSSE』、無、9号、2010年、132-143頁。

藤田尚志、ライシテの彼岸と此岸—フランス現代思想における宗教の問題、『日仏社会学年報』、無、20号、2010年、1-21頁。

藤田尚志、村上靖彦著『自閉症の現象学』、『フランス哲学・思想研究』、無、14号、2010年、191-195頁。

藤田尚志、マルセル・ゴーシェ『民主主義と宗教』合評会へのリプライ、『南山宗教文化研究所報』、無、20号、2010年、56-60頁。

宮崎裕助、(翻訳・解題)ならず者民主主義、『みすず』、無、583・584号、2010年、18-34、6-22頁

〔学会発表〕(計41件)

西山雄二・大河内泰樹・藤田尚志・宮崎裕助、ワークショップ「人文学と制度」、2013年3月26日、東京大学(駒場)。

Yuji Nishiyama, *Le droit à la philosophie et l'amour de l'institution*, 2013年3月18日、パリ・国際哲学コレージュ、フランス。

西山雄二、映画「哲学への権利」上映・討論会、台湾哲学学会年次大会、2012年10月19日、国立台湾大学、中華民国。

Yuji Nishiyama, "The crisis of the Humanities in contemporary Japan" (招待講演), Workshop "The Formation of the Humanities and the Order of Academic Disciplines", 2012年9月9-12日, The Van-Leer Jerusalem Institute (Israel).

西山雄二、ティリッヒの神学的〈学問論〉について、公開シンポジウム「ティリッヒとパネンベルクの神学的〈学問論〉」、2012年3月10日、青山学院大学。

西山雄二、人文学と共同研究、グローバルCOE・UTCPファイナルシンポジウム「カタストロフィーと共生の哲学」、2012年3月5日、東京大学(駒場)。

大河内泰樹、自由と制度 アクセル・ホネット『自由の権利』における承認論の展開、第19回政治哲学研究会、2012年3月4日、早稲田大学。

斎藤 渉、Jürgen Habermas, Die Krise der

Europäischen Union im Lichte einer Konstitutionalisierung des Völkerrechts -- Ein Essay zur Verfassung Europas, in: Jürgen Habermas, Zur Verfassung Europas. Ein Essay., 批判的社会理論研究会第21回研究例会、2012年3月17日、大阪大学(豊中キャンパス)。

藤田尚志、テレパシー：ベルクソンの心霊科学とフロイトのメタサイコロジー、日本フランス語フランス文学会2012年度秋季大会ワークショップ《辺獄のベルクソン—笑い、神秘経験、テレパシー》、2012年10月21日、神戸大学。

Hisashi Fujita, *Télépathie : recherches psychiques et métapsychologie*, Colloque international "Bergson et Freud", 2012年11月22日、フランス・パリENS.

宮崎裕助、原ミメシスと「共同遊戯」という救済—森田團『ベンヤミン』を読む、第80回 哲学/倫理学セミナー、2012年3月31日、文京区民センター。

Yuji Nishiyama, *La gratuité de la philosophie à l'époque du capitalisme mondialisé*, Colloque international: « L'égalité des chances à l'école : quelle égalité ? quelles chances ? Le partage des connaissances en question », 2011年11月18日、パリ・ユネスコ、フランス。

西山雄二・宮崎裕助、映画「哲学への権利」上映・討論会、2011年10月31日、ロンドン大学・ゴールドスミス・カレッジ、イギリス。

Yuji Nishiyama, *Deconstruction and institution, Humanities after Fukushima: Dialogues between Cultural Studies and Philosophy in the Post-Nuclear Age of Critical Junctures*, 2011年10月29日、ロンドン大学パークベック・カレッジ、イギリス。

西山雄二、『哲学への権利』を読む—カタストロフィを前にした大学』、ワークショップ「CSR概念とUSR概念—大学の社会的責任をめぐって」、2011年10月22日、南山大学。

西山雄二、カタストロフィの哲学、公開シンポジウム「若手研究者の考える、震災後の未来—学術に何ができるのか」、2011年6月26日、日本学術会議。

Yuji Nishiyama, *La gratuité de la philosophie, "Institution et Mouvement.*

Réflexions sur le droit à la philosophie" 3e colloque international du projet "La Philosophie Française à Fukuoka!" (PFF), 2011年6月18日、九州産業大学。

西山雄二、再び『大学の孤独と自由』の方へ—潮木守一『フンボルト理念の終焉?』に寄せて、公開シンポジウム「フンボルト理念の終焉?—現代日本の大学教員の課題」、2011年5月14日、青山学院大学。

西山雄二、哲学の(非)理性的建築物としての大学、国際哲学コレージュ・セミナー、2011年3月24日、パリ批評研究センター、フランス。

大河内泰樹、Prof. Takayama's Hegelian Account of Causality (and its Limits),日本ヘーゲル学会第14回研究大会、2011年12月18日、神奈川大学。

大河内泰樹、ポリツァイとコルポラツィオンの中で—大学という制度をめぐる統治の問題、シンポジウム哲学と大学II、2011年12月8日、一橋大学。

斉藤 涉、〈大学論〉は何を考えればよいのか—タルコット・パーソンズ『アメリカの大学』を手がかりに、ワークショップ：哲学と大学 II、2011年12月3日、一橋大学

斉藤 涉、野家啓一『物語の哲学』を読む、共同研究班「日本の文学理論・芸術理論」例会、2011年11月21日、京都大学人文科学研究所。

斉藤 涉、「知識人共和国」は何語で話すか—プロイセンの啓蒙主義とフランス系入植者、ゲーテ自然科学の集い京都例会、2011年7月3日、立命館大学

Hisashi Fujita, "L'immémorial. Bergson et Lévinas", "Bergson et le désastre. Lire Les deux sources de la morale et de la religion aujourd'hui au Japon" (PBJ 2011), 2011年10月29日、九州産業大学。

Hisashi Fujita, "Université comme média, université comme "passage". Théorie benjaminienne de l'université", "Institution et Mouvement. Réflexions sur le droit à la philosophie" 3e colloque international du projet "La Philosophie Française à Fukuoka!" (PFF), 2011年6月18日、九州産業大学。

宮崎裕助、自己免疫的民主主義とはなにか—

—デリダ『ならず者たち』を読む、第77回哲学/倫理学セミナー、2011年11月19日、文京区アカデミー向丘。

Yusuke Miyazaki, Response: The Right to Philosophy, Humanities after Fukushima: Dialogues between Cultural Studies and Philosophy in the Post-Nuclear Age of Critical Junctures, 2011年10月29日、ロンドン大学バークベック・カレッジ、イギリス。

宮崎裕助、海賊パラダイムの時代、UTCワークショップ「海賊と国際秩序」、2011年8月2日、東京大学駒場キャンパス。

宮崎裕助、民主主義の不可視なる敵—デリダにおける自己免疫の政治、表象文化論学会第6回大会、2011年7月3日、京都大学。

西山雄二、戦後フランスの哲学教育、公開ワークショップ「哲学と大学」、2010年12月26日、一橋大学。

西山雄二、人文系若手研究者の立場、サイエンスアゴラ2010シンポジウム「新しい科学技術政策と若手研究者の役割」、2010年11月20日、日本科学未来館。

西山雄二、脱構築とは何か(招待講演)、石川県西田幾多郎記念哲学館 哲学セミナー、2010年6月26日、石川県西田幾多郎記念哲学館。

西山雄二・藤田尚志、映画『哲学への権利』上映・ワークショップ、2010年9月28日、韓国・延世大学。

西山雄二・宮崎裕助、映画『哲学への権利』上映・ワークショップ、2010年9月27日、韓国・研究空間スユ+ノモン。

西山雄二、映画『哲学への権利』上映・ワークショップ、カルチュラル・スタディーズ学会世界大会Crossroads、2010年6月21日、香港・嶺南大学、中国。

西山雄二、映画『哲学への権利』上映・ワークショップ、2010年6月19日、香港中文大学、中国。

西山雄二・藤田尚志、映画『哲学への権利』上映・ワークショップ、日本フランス語フランス文学会2010年度春季大会、2010年5月29日、早稲田大学。

大河内泰樹、近代社会の病理とコミュニケーション的自由—A・ホネットのヘーゲル『法

哲学』解釈、日本ヘーゲル学会第 11 回大会シンポジウム『法哲学』の現代的可能性—アクセル・ホネット『自由であることの苦しみ』をめぐって、2010 年 6 月 19 日、法政大学市ヶ谷キャンパス。

宮崎裕助、英米語圏における「人文学」的思考の現在、公開ワークショップ「哲学と大学」、2010 年 12 月 26 日、一橋大学。

藤田尚志、条件付きの大学、国際哲学コレージュ・セミナー、2011 年 3 月 27 日、パリ批評研究センター、フランス。

〔図書〕(計 21 件) 8-7

西山雄二・大河内泰樹・藤田尚志・宮崎裕助、未来社、『人文学と制度』、2013 年、422 頁。

西山雄二、行路社、「三・一」以後の大学の状況と展望、加藤泰史編『転換する大学と学問』、2013 年、21-28 頁。

藤田尚志、慶應義塾大学出版会、生命哲学の岐路、金森修編『エピステモロジー——20 世紀のフランス科学思想史』、2013 年、243-321 頁。

Yuji Nishiyama, Césile Defaut, Figures du dehors, 2012, 477-487.

大河内泰樹 (共著), Wilhelm Fink Verlag, *Logik und Realität. Wie systematisch ist Hegels System*, 2012, 169-180.

Hisashi Fujita (éd), Olms, *Disséminations de l'évolution créatrice de Bergson*, 2012, 5-6, 59-73.

Hisashi Fujita, Duke University Press, *Bergson, Politics and Religion*, 2012, 126-143.

Hisashi Fujita, Cerf, "L'Université manque à sa place dans la philosophie française, ou De la politesse de Bergson", Camille Riquier (éd.), *Bergson*, 2012, 223-238.

藤田尚志、春風社、西日本哲学会編『哲学の挑戦』、2012、299-343 頁。

宮崎裕助 (翻訳)、ポール・ド・マン『盲目と洞察——現代批評の修辞学における試論』、2012、355 頁。

宮崎裕助 (共著)、ナカニシヤ出版、『世界の感覚と生の気分』、2012、244-262 頁。

斎藤渉 (共著)、名古屋大学出版会、『啓蒙の運命』、2011、522-549 頁。

宮崎裕助 (共著)、理想社、『カントと日本の哲学』、2011、59-76 頁。

西山雄二、勁草書房、『哲学への権利』、2011 年、256 頁。

西山雄二 (翻訳)、筑摩書房、エマニュエル・レヴィナス『倫理と無限』(翻訳)、2010 年、172 頁。

西山雄二 (共著)、平凡社、『格闘する思想』、2010 年、215-245 頁。

大河内泰樹 (共著)、社会評論社、『マルクスの構想力 疎外論の射程』、2010 年、296(151-177)頁。

大河内泰樹 (共著)、理想社、『ヘーゲル体系の見直し』、2010 年、272(171-194)頁。

大河内泰樹 (共著)、創風社、フィヒテ『全知識学の基礎』と政治的なもの、2010 年、364(51-82)頁。

大河内泰樹、晃洋書房、ハインリッヒ・マイアー『レオ・シュトラウスと神学—政治問題』、2010 年、175(113-129)頁。

Yusuke MIYAZAKI, Graduate School of Modern Society and Culture, Niigata University, Kurihara Takashi, ed. *Glauben und Wissen in der Geistesgeschichte*, "Responsibility of Making Decisions without Decisionism: From Carl Schmitt to Jacques Derrida", 2011, pp.140-155.

〔産業財産権〕  
○出願状況 (計 0 件)  
○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕  
ホームページ：  
<http://www.comp.tmu.ac.jp/nishiyama/pg116.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

西山 雄二 (Yuji Nishiyama)

首都大学東京・人文科学研究科・准教授  
研究者番号：30466817

(2)研究分担者

大河内 泰樹 (Taiju Okochi)

一橋大学・社会学研究科・准教授  
研究者番号：80513374

藤田 尚志 (Hisashi Fujita)

九州産業大学・国際文化学部・講師  
研究者番号：80552207

宮崎 裕助 (Yusuke Miyazaki)

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授  
研究者番号：40509444

齋藤 涉 (Sho Saito)

大阪大学・言語文化研究科・准教授  
研究者番号：20314411

(3)連携研究者

( )

研究者番号：